

分科会概要

分科会 1：広域連携での多文化共生の推進

ねらい	外国人住民の居住地域が拡散し、1つの市町村だけで必要な支援を行うことに限界が生じている。地域を越えた広域での多文化共生の推進について、新たな取り組みや今後の可能性を考える
担当	ダイバーシティ研究所
発表テーマ および登壇者	<ul style="list-style-type: none">・ 北陸におけるコレクティブ・インパクトの可能性（共創の未来とやま実行委員会・宮田妙子）・ 佐賀の現場から見る多文化共生と広域連携の可能性（多文化共生さが推進課・北門織絵）・ 備後圏域での多文化共生ビジョンの策定について（福山市市民局まちづくり推進部多様性社会推進課・西岡 雅之）
進行	田村太郎（ダイバーシティ研究所）

分科会 2：多職種連携による地域福祉の取り組み

ねらい	各地で地域住民としての外国人が増え続ける中、福祉の観点からも多文化共生に取り組む必要性は高まっている。単独では対応が難しい課題に対して、多職種連携により成果を上げる事例を通して、地域のリソースをどのように繋げて、新たな取り組みができるかを考える。
担当	シャンティボランティア会
発表テーマ および登壇者	<ul style="list-style-type: none">・ 「触媒」が生む、新たな外国人支援のかたち（シャンティ国際ボランティア会・村松清玄）・ 多職種連携による地域福祉の取り組み-可児・美濃加茂での子どもの居場所づくり-（アイキャン・福田浩之）・ 共に生きる～Diversity & Inclusion!～（PHD 協会・坂西卓郎）
進行	平山将（シャンティボランティア会）

分科会 3：外国人労働の課題と解決

ねらい	外国人材が安心して働き暮らせる環境づくりは、企業、行政、地域の共通課題である。企業の課題や実践を共有しつつ、地域や制度を含む支援のあり方から、多様な立場の協働による多文化共生の仕組みを考える。
担当 (WG)	CSO ネットワーク（前半の進行：長谷川雅子）
発表テーマ および登壇者	<ul style="list-style-type: none">・ 働く意欲を生み出すコミュニケーション（平野ビニール工業株式会社・平野利直）・ 外国人材との共生を目指す創造的対話への挑戦（CSO ネットワーク・古谷由紀子）・ 九州での取り組み事例より（JICA 九州・堀美幸）

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育成就労制度を見据えた地方・中小企業と商工会議所の取組み（日本・東京商工会議所・大下英和、オンライン） ・ 外国人雇用適正化プロジェクトの取組み（グローバル人財サポート浜松・堀永乃） ・ 中小企業への人権尊重の取組み支援（JP-Mirai・宍戸健一）
進行	パネル：佐藤寛（開発学舎・みんなの外国人ネットワーク）

分科会4：多文化共生時代における災害時対応

ねらい	阪神・淡路や中越地震、東日本大震災を経て整備が進んだ災害時の多言語情報支援から、能登半島地震での実際の対応や各地で進む「外国人防災リーダー」の動きなどをふまえ、これから求められる災害時対応のあり方を考える
担当（WG）	多文化人材活躍支援センター
発表テーマ および登壇者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際協力 NGO による被災地支援と外国人（難民を助ける会・櫻井佑樹） ・ 外国人リーダーの育成を通じた地域防災力の向上（外国人防災リーダーズ・マリア アラウコ） ・ 各地の被災地支援の経験から（ひろしま NPO センター・増田勇希）
進行	山路健造（多文化人材活躍支援センター）

分科会5：人材と資金のキャパシティビルディング

ねらい	近年、外国人との共生に向けた各省庁の施策や民間財団による多文化共生分野への助成制度が拡充し、国際交流や協力分野での人材育成スキームも国内での担い手育成に力を入れている。こうしたリソースを活用し、これからの地域における担い手をどのように育成・支援していくのか、方策を考える
担当（WG）	JICA
発表テーマ および登壇者	<ul style="list-style-type: none"> ・ 休眠預金等を活用した多文化共生分野へのアプローチ（JANPIA・見上敦子） ・ 帰国後の日本語パートナーズによる多文化共生への貢献とその支援のあり方 ・ 帰国後の日本語パートナーズによる多文化共生への貢献とその支援のあり方（国際交流基金・高橋裕一） ・ 人材育成と事業助成を活用した多文化共生ネットワークの形成（かめのり財団・西田浩子） ・ JICA 海外協力隊事業による多文化共生分野への共創アプローチ（JICA・内山貴之）
進行	和田泰一（JICA）